

JAにいがた南蒲 コメコメ通信2010 vol.3

平成 22 年 7 月 22 日発行
 発行元: JAにいがた南蒲 営農経済部 米穀課
 TEL: 0256-39-7012
 FAX: 0256-38-1111
 e-mail: beikoku@ja-niigatanankan.or.jp
 URL: http://www.ja-niigatanankan.or.jp

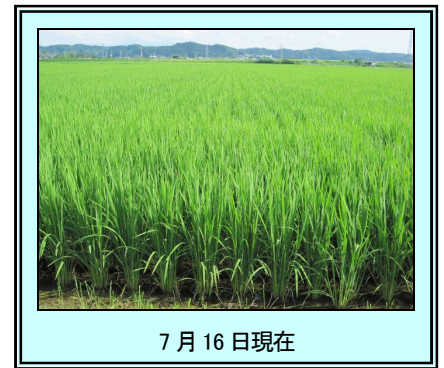
(1) 生育状況 (7月20日現在)

品種	地区	くさたけ 草丈 (cm)			けいすう 茎数 (本/m)			ようすう 葉数 (葉)		
		本年値	前年値	指標値	本年値	前年値	指標値	本年値	前年値	指標値
コシヒカリ	平均	83.8	78.3	76.0	346.4	427.0	410.0	12.3	12.0	12.0
こしいぶき	平均	78.3	74.0	77.0	349.2	433.9	430.0	12.4	12.3	12.7

現在の生育ですが草丈はやや長く、茎数は少なめ、葉数は指標値に近い状況です。5月の低温による生育の遅れを取り戻し、現在ではほぼ平年並となっております。

しかしながら今年の梅雨は平年より気温が高く降水量の多い日が続きました。この気象は稲に害を与える病原菌にとって非常に適した気象であり、当JA管内の田んぼでも病気の発生報告を受けております。前号で「稲は病害虫に負けない強い体力をつけるが、それだけでは防げないので薬剤散布などの対応が必要」と掲載しましたが、まさにその状態になってきました。病気が確認されたらすぐに防除を行い、病原菌の広がりを抑えます。

現在JAでは減農薬栽培を進めておりますが、ここで薬剤防除を行わないと稲の収穫量および品質に大変な影響を与えてしまいます。今後も病気や害虫の被害状況を確認しながら、適切な指導を行って参ります。



☆今後の稲作☆

これから稲は白くて小さい穂を出し粳を実らす準備を始めます。それを「^{しゅっすい}出穂」と呼びます。

この出穂期は稲作にとってたいへん重要な時期で、この時期の稲は非常に多くの栄養を必要とします。出穂前に肥料を与える(穂肥)ことで粳の数(収穫量)、また粳一粒の重さ(品質)が決まります。この時期に田んぼの栄養分が無くなると収穫量と品質に大きな影響を与えるのですが、一方で稲は非常に繊細な作物で肥料の散布時期、散布する量でも収穫量と品質に影響がでます。

『どの時期にどのくらいの量を散布するかを見極める』、これは農家にとって稲作における腕の見せ所です。JAでは農家向け散布指導会を開き散布時期と散布量を指導し、農家の稲作技術向上に努めています。

これから8月です。8月は1年の中で1番気温が高くなる時期ですが、暑ければ人間と同じように稲も水を欲しがります。今後は適宜に水を与えしっかりとした稲づくりを目指します。



(2) 水稻品質向上研修会を開催しました。

出穂期を前に適切な水稻技術指導を行うため営農指導員向けの水稻品質向上研修会を開催しました。

当日は講師を招き、営農指導員のほかにも水稻栽培に係るさまざまな職員が参加し、熱心に講義を受けていました。また、座学の後には田んぼに出かけ実際の稲をみながら実践における指導力向上を図りました。JAにいがた南蒲では今後も営農指導員の指導技術向上に努め水稻の品質向上に努めて参ります。



JAにいがた南蒲では2年連続1等米比率90%以上を確保しました。

22年産も基本技術の励行で高品質米を目指します。

①土づくりの実践 ②適正粳数の確保 ③後期栄養・水の確保